

## 北鹿の学び舎から

2021-2022

OB、在校生、学校の今 ⑤

## 自分のための勉強を

今回は秋田職業能力開発短期大学校（以下、短大）電子情報技術科を平成30年3月に卒業し、同年4月に秋田県鹿角郡小坂町に本社がある十和田オーディオ株式会社に入社

した加藤矢晟さん（鹿角市出身、花輪高校卒）を紹介しました。電子情報技術科に在籍していましたが、現在の仕事は短大における生産技術科の内容に近いのでは」と言っています。

十和田オーディオ株式会社は、1961年の創業以来、各種電子機器から始まり、医療機器や車載機器へと広げ、多彩な製品を提供しており、またトータルEMSメーカーとして『企画、設計・試作、製造』までを一貫してお客様に提供している会社です。

加藤さん自身は、製品の加工、組み立て作業を安全に、かつ安定した作業が効率よくできるように、また高品質な製品を提供する事を目的に生産技術課で治具の作成を行っ

十和田オーディオ株式会社

加藤 矢晟さん



秋田職能短大 平成30年3月卒

短大時代の思い出を聞いてみました。当時加藤さんは片道40分かけて通学しており、

「今考えてみると、寮生や自宅生と比べると、往復の時間は授業1コマ分に相当していたんだ」と感慨深げに話していました。短大では、プログラミング関連の授業が特に記憶に残っているそうです。プログラミングの基礎を勉強

し、どんどん面白くなっていき、やればやるほどまた面白くなっていったそうです。加藤さんは、短大2年次の総合制作実習（いわゆる卒業研究）は、筆者の研究室に配属され、EITロボコンに取り組みでもらいました。EITロボコンは、エンジニアの人財育成と技術教育機会の提供を目的としたロボットコンテストで、ソフトウェア重視の教育コンテンツであることが特徴です。コンテストは、共通のロボットによるコース走行タイムの成績に加え、高品質な組み込み開発に欠かせないソフトウェア設計も評価対象になっています。加藤さんは、1

強会や地区大会のために盛岡に何度も足を運び、横浜で開催された全国大会に行ったことがよい思い出となっています。その成果のひとつとして、1年生に対してプログラミング教育を一生懸命行ってきたことを改めて感謝しています。



年次からこのEITロボコンに参加し、2年生になってからは、夏休みも平日の夜も時間割きEITロボコンにチャレンジしました。そして2年生チームは北東北地区大会で準優勝を果たし、チャンピオンシップ大会（全国大会）に出場しました。私自身、加藤さんはじめチームのみんなと勉強会や地区大会のために盛岡に何度も足を運び、横浜で開催された全国大会に行ったことがよい思い出となっています。その成果のひとつとして、1年生に対してプログラミング教育を一生懸命行ってきたことを改めて感謝しています。

秋田職能短大 電子情報技術科 浅野英樹